

# 厳かなる感動と興奮

# 神の降臨する日



## 気多若宮神社御由緒・沿革

本社の創建は遙か歴史のかなたにかすみ、詳らかではないが、往古より古河郷上気多榊ヶ岡（現在地）に鎮座せる国史所載地で斐太十神の一社に数えられ、上気多村という地名も社名から興ったと云われる。

御祭神は<sup>おおなむら</sup>大己貴神（大国主神）並びに<sup>みこみい</sup>御子御井神を主神とし、外に相殿として天照大神外三柱の神々が奉斎されている。時代は下がって明治維新後、明治3年、気多若宮神社と改称し、同4年には郷社と定められ、同40年3月神饌幣帛料供進神社に指定された。

その後大正15年2月11日に県社に昇格、現在神社本庁所属の特別金幣社として広く一般の崇敬を集めて居る。



御神輿が巡幸される道は塩で浄められる



町内42ヶ所で祝詞奉上が行われる



町内を巡幸した御神輿は御旅所でお泊になる



総勢350余名の大行列が気多若宮神社を出入

### 御神輿行列配置図

- 走り太鼓
- 文化財旗
- 大神
- 遠見役
- 先駆
- 社名旗
- 獅子
- 神楽台名旗
- 各屋台台名旗
- 闘鶏楽
- 御神輿警護
- 采女・舞姫
- 雅楽
- 日月旗
- 大太神楽太鼓
- 神職
- 朱雀・白虎旗
- 紫翳
- 賽物係
- 御神輿**
- 神槍
- 菅翳
- 青龍・玄武旗
- 宮司
- 氏子総代
- 神事取締旗
- 神社委員
- 供物車
- 救羅車

【最後尾】



**かぐら**  
神楽台(向町組)

明治16年に高山の一本杉白山神社の神楽を入手。工匠村山英繩氏と西野彦次郎氏そして彫刻の蜂谷理八氏により、明治22年に修理を施したが、大正14年には解体、大修理が行われ現在に至っている。

烏帽子・直垂姿の伶人5人が搭乗して奏楽をする。神楽を奏するので、屋台巡行の先頭に立つことになっている。



**せいよう**  
清曜台(三之町上組)

明治26年の改築、昭和8年から16年の大補修を経て現在に至っている。

工匠は古川の上谷彦次郎氏、彫刻は大島五雲氏・岡部圭秀氏・岡田芳貞氏、塗師は渡辺正八氏・神出貞三氏である。

見送りは今尾景祥氏の「海浜老松図」と旧公爵近衛文麿元内閣総理大臣の「八紘一字」の墨書。



**びやくこ**  
白虎台(三之町下組)

下段が高く猩々緋の大幕を吊っており、金具や彫刻はあまりついていないが、江戸時代の様相を唯一残す貴重な屋台。

源義経の武者人形を飾り尊崇したので、屋台の紋を源氏の家紋の笹竜胆ささりゅうたんにしている。大幕にはマークのような紋様と、外国文字が書いてあり、南蛮渡来の貴重なものである。

昭和56～59年に解体大修理を行った。



**さんこう**  
三光台(二之町上組)

古くは竜門台と称していたが、文久2年(1862)組内の蜂谷理八氏と石田春皐氏の合作新築の際、日・月・星にちなんで三光台と改名した。

見送りは松村梅宰筆の「虎図」で、見送り枠の巻竜と対になって「竜虎」を形づくっている。替見送りは帝室技芸員幸野株嶺の「素盞鳴尊の八岐大蛇退治図」である。



**かめ**  
金亀台(二之町中組)

現在の金亀台は天保12(1841)年に工匠 谷口延恭・銚具 銚屋茂兵衛、彫刻 大島五雲にて新築。

見送りはゴブラン織りの竜虎の図で、厚手の純金糸を織り込んだ見事なもので、四方のへりは、テレフテン生地、裏地は印度更紗。総て京都の大丸屋惣八より購入した。

替見送りは京都の鈴木松年氏の傑作「亀上浦島図」である。また、見返りを昆布人といわれる黒人がつり下げている。



**りゅうほう**  
龍笛台(二之町下組)

明治19年、工匠 谷口宗俊・宗俊、彫刻 清水虎吉(松本)にて再建。

当町の屋台の中で大型で形体も堂々として豪壮を誇っている。からだをくねらせて、両側から見送りをかかえるようにした大きな昇り竜・降り竜の彫刻が印象的である。

見送りの墨絵の「雲竜図」と天井絵の竜は垣内雲嶺氏筆のものである。



**ほうほう**  
鳳凰台(一之町中組)

大正11年に完成した大正期を代表する屋台で、当時、工女を多数募集していた県外の製糸会社からも浄財が寄進されてできた屋台である。

棟梁 村山群鳳、彫刻 大島五雲、塗師は和田卯之助氏、金具は町田長之助・同吉太郎の両氏である。見送りは長谷川玉純氏の「鳳凰飛舞の図」である。

屋台先の上で組内の児童に歌舞伎を演じさせた時代がある。



**かみりん**  
麒麟台(一之町下組)

昭和8年に名工上谷彦次郎、彫刻は大島五雲により新築。上段から差し出された樋で、かわいい唐子人形が謡曲の「石橋」に合わせて花籠を捧げ、獅子頭をかぶって舞うと、五色の紙片が美しく飛び散る優雅なからくりを持っている。

見送りは古川町出身の玉舎春輝氏の「日本武尊の草薙図」と帝室技芸員・芸術院会員だった前田青郎画伯作の「風神雷神図」である。



**せいりゅう**  
青龍台(殿町組)

昭和15年棟梁中村房吉、彫刻 岡部圭秀により大改築。福祿寿と唐子童子の人形が上段の樋で「手吊り足吊り、すってんてん、いひょう」の掛け声と三味線囃子につれて踊る。最高潮に達すると、福祿寿の左手の亀の甲が割れ、中から鶴が羽ばたき、口から赤い短冊形の旗が飛び出し、金銀色紙が飛び散る離れからくりである。

見送りは堂本印象画伯作の「天拝の竜の図」である。